

# 静岡文化情報

# 街かど

No.4

1995.12

静岡市として残したい文化・創りたい文化②

●古代文化の宝庫・登呂を訪ねて

静岡大学名誉教授 市原壽文

●井川の自然と文化

静岡市立登呂博物館学芸員 大村和男

文化のルーツを求めて④

●静岡の伝統工芸を現代に伝える駿河雑具

駿河雑具協同組合理事長 松島 壯

静岡市の食文化

●地の物を大事にしないと食文化は逃げてゆく

静岡県社会人体育文化協会事務局長 佐野つとむ

●十七音で生きる喜びを

静岡市民俳句大会実行委員会委員長 本宮鼎三



伝統的工芸品・駿河雑具（通商産業大臣指定） 御所車



● 静岡市として残したい文化・創りたい文化②

# 「古代文化の宝庫・登呂を訪ねて」

静岡大学名誉教授 市原 壽文 ひさ ふみ



## 静岡の伝統工芸と登呂の文化

静岡の伝統工芸品の中に、木のくり物や竹細工があることは広く知られていますし、その一部は本誌前号にもとりあげられています。繊細に加工を加えた千筋細工や、堅実な機能美を備えたくり物の製品を見ているだけで、心和む思いにさそわれる人は多いと思います。

これらの手工芸品を見ていると、ふっと登呂遺跡の出土品の一部を連想することがあります。それは杉材を加工した高杯と、円形の

高杯は皿・脚・台を別々につくり、柄と柄穴で組み合わせられ、全高は30cmをこえます。

筧は竹類を材料にしたと考えられていますが、径約40cm、丸木の小枝を縁に編みこんで補強し、全体は平組みに編み上げられています。戦後の保存処理が十分でない時の発掘品ですから、石膏型だけが保存されていますが、繊細に編み上げられた堂々たる製品であるということが出来ます。

これらは、登呂の弥生人には日常生活用具だったのですが、その一つ一つは遺跡の中に2,000年近く眠っていた弥生時代の工芸品でもあります。

静岡の木・竹の伝統工芸品は、歴史的には駿府の時代に造りはじめられたと言われるものが多く、登呂の工芸品と短絡して結びつけることはできませんが、その遠い原点を登呂の弥生人の文化の中に求めることは単なる空想と言えない日もあるのではと考えています。

## 登呂からの情報

静岡の多くの人々の意識の一角には、登呂に関しての何らかの情報が位置していることは否定できないと思います。これは、登呂側からは外に向けて情報が系統的に



▲高杯

◀昭和25年、発掘当時の登呂遺跡

## CONTENTS

静岡市として残したい文化・創りたい文化②  
古代文化の宝庫・登呂を訪ねて

静岡大学名誉教授 市原 壽文……………1

井川の自然と文化

静岡市立登呂博物館学芸員 大村 和男……………4

文化のルーツを求めて④

静岡の伝統工芸を現代に伝える 駿河雑具

駿河雑具協同組合理事長 松島 壮……………6

静岡の食文化

地の物を大事にしないと食文化は逃げてゆく

静岡県社会人体育文化協会事務局長 佐野 つとむ……………8

十七音で生きる喜びを

静岡市民俳句大会実行委員会委員長 本宮 鼎三……………9

がんばっています!!市民の文化活動……………10

ストリートミュージック・フェスティバル・おかあさん人形劇団「星の子」

静岡市芸術文化奨励賞受賞者 坂本雅子・鈴木義二

INFORMATION……………静岡音楽館A O I 市民会議議長 大久保 満 男……………12

編集後記……………13





▲布切

銅環（うでわ）と  
小銅環（ゆびわ）▶

流され続けていることと無関係ではないと思います。

このように言うと、「最近の学校の教科書にも登呂は出てこないと言うのではないか」と言う声も聞こえてくるように思います。考古学上の新発見資料に教科書に掲載される席を譲っていることも事実ですが、社会教育・学術・文化面での発信者としての役割を、依然として果たし続けていることも否定できません。

登呂博物館1階の体験学習室では、実験考古学的に粘土から弥生土器を作ること、復元された弥生時代の鉄の斧で木を切り、田下駄を履いて人工水田を歩き、復元織

機で弥生時代の布を織ることなどが、学芸員や経験をつんだボランティアの人達の工夫によって行なわれ、その指導も受けられます。こうした試みは、考古学関係の博物館の間でも高く評価されていることです。

また、登呂遺跡の出土品などは、今日も各方面の専門家に研究対象としてとりあげられ、新事実が次々と明らかにされています。

戦後の発掘調査において発見された、黒く炭化した数十点の布片が平織りで織られていることは早くから言われてきましたが、その繊維が大麻と確認されたのは昭和48年（1973）、発見以来20数年後の

ことです。

同じく、銅環と呼ばれている青銅製の腕輪と指輪があります。鉛の同位体比測定という新手法による成分分析の結果から、国産の青銅製品ということが明かにされたのは昭和58年（1983）で、発掘以来30数年後のことです。

また、弥生時代人の栽培していた米がヤポニカ種であって、その原産地は中国の長江中・下流域ということは植物遺伝学上の最近の研究で明らかにされつつあることです。このような研究とも関連して、遺跡の水田の地域の一角では農民をはじめ考古学・植物遺伝学の研究者10数名によって、登呂の



▲ざる（石こう型どり）

◀登呂博物館1階 参加体験ミュージアムの  
いろいろな道具類



復元水田研究会の  
「田荒おこし」▶

時代の稲の品種、コメの収穫量、農耕の様子を再現する試みもなされています。

以上は、登呂遺跡をめぐっての学術的に裏づけられた研究結果などのごく一部にすぎませんが、現在の諸科学が解明した遠い祖先の文化と生活に関する最新の、あるいは明らかにされつつある諸情報です。

登呂遺跡は、現在の私達に新しく発見された掛け替えない新情報を伝え続けてくれる情報源ということも理解していただけたと思います。

\* \*

## 登呂の文化と 静岡の文化

2,000年の年月をこえて、登呂遺跡から発信され続ける情報から、今私達は何を創りだすことが可能なのでしょうか。

この問題を考えてみると、人によって様々な考えが駆け巡ることと思います。

先に述べたような伝統工芸の中に、登呂人の残した型と技を生かしていくというような即物的な考えも成立すると思います。

私は、静岡平野の一角に集落地を選定し、水田を経営した弥生

人達の逞しさと行動力を謙虚に学んで、今日の、そして21世紀の静岡の文化の中にとり入れていきたいものと考えています。

登呂遺跡は、単なる国の遺跡ではなく、国宝的価値をもった遺跡のみに与えられる特別史跡の指定を受けています。

華々しく報道される最新の考古学上の発見と比較すれば、いぶし銀のような存在と言えるでしょう。日本の稲作文化を代表する遺跡の一つであり、また、静岡市民の生活文化の原点とも言える登呂遺跡が、良い環境の中に保存され、後々まで残され続けなければならないことは明白と思います。



現在の登呂遺跡公園





# 井川の自然と文化

静岡市立登呂博物館学芸員 大村和男

静岡市街から望む井川のありかは、山また山の向う側です。南アルプスの峰々と大井川のV字谷に隔絶された秘境のイメージをいだが、実際に来てみると、谷間の底に、ある種の「開けた気分」を漂わせている山村です。この「開けた気分」は、近代化の象徴として昭和32年(1957)に完成した井川ダムに

起因するものですが、この古層に、山岳交通と交易の要衝として、古くから開けてきた歴史の根っこがあることを無視できません。山の村の開発は、峠を利用した物資の輸送に支えられ、甲駿信三国の国境地帯の拠点として、井川は重要な位置を占めていました。この三国の国境地帯は、山林資源、動物資源、鉱物資源など、豊

かな山の幸の豊庫でした。井川の開発の歴史は、これら天然資源を求めて南アルプスの奥山に入りこんできた山人の団によって展開してきました。井川の古いムラの開発伝承は、田代以北の奥山に残されています。そうした、山中を移動しながら生計を立てる山人を、井川では「ヤモード」と呼んでいました。田代には、先祖が信州の

遠山から来たという言い伝えがあって、山を越えてきた人々が、はじめは奥山の高いところに定住し、徐々に移住を繰り返しながら低い里山へと下りて来たことを示しています。非農耕民が焼畑農耕をてこにしてカイト(常畑のこと)を拓き、焼畑農耕民としてムラを作ってきたという歴史の方向性が跡づけられます。

井川の伝統的山村文化は、この焼畑生活を基盤にして培われてきました。井川の焼畑の特徴は、ヒエを目的とした春ヤブが大規模にまわされたことで、標高700mのヤブツバキクラス域から、1200mのブナクラス域の間で、標高差に合わせた品種を選んで焼畑にヒエが栽培されていました。ヒエ飯が主な

食べ物でした。こうした焼畑生活を現代に留めるものに、菅山のイゴヤ(出作り小屋)があります。イゴヤは奥山の焼畑をやる間中住むもので、毎年、4月頃から11月頃まで居たといわれます。田代の諏訪神社のお祭りは、「二十六夜さん」と呼ばれ、アワで漬けたヤマメのすしが神饌として供えられる珍しい祭りですが、この二十六夜さんの時、村へ下りてくるだけでした。こうしたヒエに頼ったきびしい焼畑暮らしが、山に生きた井川の古老たちの生きざまでした。そうした生きざまを染み込ませた焼畑生活に関わる道具類こそ、井川の文化を後世に伝えていくものです。イゴヤの保存とともに、山の手作り民具の体系的収集と保存は、今、

やっておかなければなりません。井川の自然と文化は、静岡の歴史の原初を育むものです。割田原遺跡に見られる縄文人の暮らしぶりや中世の世界を引っばっているヤモードの暮らしぶり、それに、甲州からの検物師や金山衆の移住などさまざまな時代を重ねさせて山は開発されてきました。そうした開発を支えた山の道が、現在林道という自動車の通る道に変化してきています。小河内と雨畑は、車で山伏峠越えができるようになりました。井川は、どんづまりでなく、国境地帯を中継するルートの上に、開けた村であったことが、昔から今に実感されてきます。



◀井戸端の洗濯  
(小河内)

古い民家のイロリ  
とアマダナ(田代)



▲井川の特産品  
メンバ作りの仕事場  
(中野・海野家)



◀井川の民具「キビク」

▼小河内の村



ヤマメ祭り(明神谷) ▶



# 静岡の伝統工芸を 現代に伝える駿河雑具

駿河雑具協同組合理事長 松島 壯

## 昭和10年代 静岡職人町の想い出

私自身の少年時代 [昭和10年代 (1935)] を想い出してみると、静岡の下町 (職人町) の家並みやその裏町の長屋などがセピア色のモノクロ写真となって思い浮んできます。

そこには箱物に鉋をかけている指物屋さん、ロクロで魔法のように椀や木皿をけずり出している挽物屋さん、刷毛で漆を塗っている塗屋さん、金粉を蒔いて手品のように絵柄を浮かびあがらせる蒔絵師さ

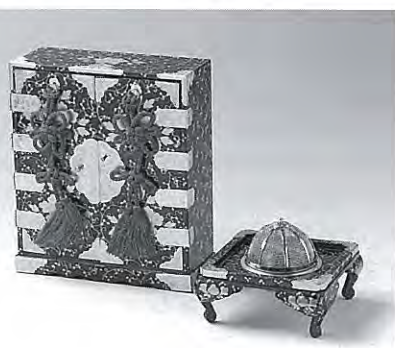


松島 壯氏  
プロフィール

昭和58年 (1983)、㈱三和、取締役社長就任現在に至るが、その間、平成5年 (1993) 駿河雑具協同組合を結成、理事長に就任。その他 (社) 日本人形協会副会長、同静岡支部長、静岡雑具人形見本市協会会長、静岡特産工業協会副会長、静岡朝日テレビ番組審議委員長、静岡商工会議所常議員等を務めるかたわら、伝統工芸の街おこしに暇がない。稲川三丁目在住。63歳

ん、金板にタガネを当てて槌をふるう金具屋さん…。それらの仕事を興味深々と土間にしゃがんで眺めている私たち腕白小僧、家々の間の狭い道路を行き交う人々、走り去る自転車に混って雑具や塗下駄の仕掛り品を満載したりヤカーや大八車を引いてゆく軽子屋さん…。そんな情景が膠や塗料や材木の匂い、機械や槌打つ音と一緒に甦ってくるのです。

静岡は古くから塗物の街として栄え、それにあわせて木工・竹細工も発達して、所謂、地場産業を形成してまいりました。家具・鏡台・針箱・塗下駄・竹細工・文具・駿河雑具・



▲三ツ揃

雑人形といった伝統工芸品が次々と生まれ育ち、それらに係わる人口が大きくふくれて、それが近代の静岡に繁栄をもたらしたといっても決して過言ではありません。

## 静岡に繁栄をもたらした伝統工芸

静岡の伝統工芸の「しん」である塗物・木工は、今川時代 (16世紀末) に見られます。戦国の今川氏の時代に、盛んに漆器・食器 (御器) を製造していたことの名残りが、現在の「御器屋町」 (現在の宮ヶ崎町) という町名で残っております。御器の製造集団が住んでいた町というわけです。

久能山東照宮の造営 [元和2年 (1616)] も、塗物の技術を定着させた大きなチャンスとなりました。時の最高権力者である徳川家康を祀るのですから、全国から名工た

ちが集められ、その技術が残され、特に塗物は塗料の漆が静岡の多湿な気候にピッタリであったということから、しっかりと根を下ろすことになったのです。

静岡浅間神社の造営も、塗物工芸を静岡に広げた大きな機会となりました。目の覚めるような極彩色の総漆塗の社殿。特に將軍家の手厚い庇護をうけて10万両の費用をかけた第2期造営工事 [文化元年 (1806)] は、なんと、60年間かかりたずさわる職人も一代では完成できないことから、親から子へ、子から孫へと引継がれ、その名工たちが余技に膳・椀・鏡台などを作ったことが、塗物の発達につながりました。



▲茶棚

江戸時代末期、オランダ商館つきの医師として来日し、近代日本に大きな影響を与えたシーボルトが『江戸参府記行』 [文政9年 (1826)] の府中 (静岡) のくだりで、「この地方は…高価な木で作った種々の家具、そのほか漆器、人形…の生産で全国的に有名である」と書いているほどの状況でありました。



▶ 駿河雑具

## 静岡の伝統工芸の歴史

職人街は、旧町名で象徴されるように、浅間神社近くの御器屋町から研屋町・大鋸町・大工町へ、更に静岡市西部の限界へと移っていったのは、江戸時代末期から昭和30年頃までの約100年間、伝統工芸の職人や問屋が集中して定住し、独特の職人街を形成してきました。その時代の静岡の大きな消費力を担っていた地域であったわけで、現在の映画館街が中心より西寄りの地区にあるのも、その故と考えられるほどの繁栄ぶりでありました。しかし、その後の時代の流れで、静岡の産業地図は大きく変わりつつあります。「時代の流れには逆えない」と言ってしまうとそれまでですが、このままでは静岡は何の特徴もない地方都市の一つになってしまいます。「街おこし」が叫ばれている現在、「職人の町おこし」が静岡の大きなテーマにならないものか、貴重な伝統と歴史が時代の流れの中に消滅させてしまわないよう「職人の街」静岡の復活がならないものかと熱望し

ている昨今です。

その一環として、平成5年 (1993)、駿河雑具協同組合を結成、伝統工芸の復活に業界全体として取り組んだ結果、県・市はじめ関係各位のご理解とご協力により、平成6年 (1994) 4月、駿河雑具が通商産業大臣の伝統的工芸品に指定され、後継者の育成や伝統的技法の継承などに明るさが見えてきました。

▼ 雑具製作中の蒔絵師





# 地の物を大事にしないと 食文化は逃げていく

静岡県社会人体育文化協会事務局長

佐野 つとむ

用宗港は、今日もシラスの水揚げで活気づいていた。

シラスには《鮓》という当て字もあるように、手の平に乗せると透明なからだがガラス細工のようにキラキラと輝き、口へ入れるのをためらってしまう。

静岡の方ならご存じのことと思うが、シラスはイワシの子で、生まれて1、2か月、春から初夏にかけて捕れるのを「真イワシ」、初夏から冬にかけて捕れるのを「片口イワシ」と言う。質も味も片口の方がだんぜんうまい。

◆ ◆  
東北地方から九州地方の日



ビールつまみにもいいし、軽くて、薄くて、手みやげに最適なのだが、なにせ手仕事、値段の高いのが難で、持参した相手先に評価されないのがつらい。白っぽいのは見栄えはいいが一度むいてあるので、黒か黄色味したものがうまい。

◆ ◆  
用宗の帰り、魚屋でシラスを買った。



本沿岸に分布しているが、黒潮と栄養分に富む静岡沿岸のものは群を抜いてうまい。ことに、漁場が近いので、30分で網を曳ける用宗のものは鮮度も一級品で、以前、四国、高知の料理屋で見たシラスはドロメと呼んでいたが、名の通りのしろもので、口へ入れる気にもならなかった。

しかし、静岡食文化の横綱格であるこのシラスも静岡で食べられる量は水揚げの約1%、ほとんど冷凍にされて東京へ行ってしまふ。

◆ ◆  
シラスの加工品に「たたみイワシ」があるが、全国で販売されている100%近くは、実は、用宗の10軒の家で加工されている。

200gで600円だった。ついでに静岡へ来て街中で根ワサビを一本500円で買った。

このワサビも生産高は静岡県が第1位、伊豆、安倍奥で主に生産されているが、静岡で消費されるのは約25%、やはり県外へ行ってしまふ。ことに根ワサビを使うのは高級料理屋ぐらいで、寿司屋でも握るたびごとに擦り降す店は少なくなって、ほとんどが練りワサビを使っている。中国産の西洋ワサビとテンブンを練り、着色したものだが、からみが強すぎて魚の味がとんでしまふ。

◆ ◆  
3分の1ほど擦り降して、残りは冷蔵庫に入ると、まずワサビを口へ含む。甘辛い香りがすうっと鼻へ抜けると口中にピリッと刺激が広がる。べたつくことなく、まだ一匹一匹がその存在を主張しているシラスは、舌を刺すほど歯ごたえがある。

◆ ◆  
1,100円、ちょっと贅ぜいたくな晩酌になったが、文化というのは心が豊かにならないと本物には出合えない。

# 十七音で生きる喜びを

●初めて開催した「静岡市民俳句大会」を終えて

静岡市民俳句大会実行委員会委員長  
本宮 鼎 三

## 楽

しむ、喜ぶ、そして笑い…。この「笑い」には哄笑、嬌笑、爆笑いろいろあります。過日、静岡市街で大盛況の「大道芸大会」は、まさにゆとりのある笑いの渦。

さて同じ笑いでも、「微笑」は、私達のジャンルの「俳句」、こちらの方は静かなるブーム。なぜブームかといえば、これもまた一つの遊びの要素があるからでしょう。

句会で無記名で投句一互選一点取り一最高点などに褒美。その上に季節や字を覚え、仲間との交流などのメリットもあるからです。

目立たず以心伝心、だから静かです。そういう要素を持っている俳句ですが、このたび、「静岡市文化振興財団1周年記念事業・中勤助文学記念館開館記念」として初めて「静岡市民俳句大会」を市立薬科公民館において、平成7年10月29日に開催することができました。これもひとえに市内の俳人、市および教育委員会、これに協賛をいただいた各位のご支援によるものと感謝している次第ですが、当日は、300余人の方が参集、稲森道三郎先生の「中勤助先生の俳句」という講演で、錦上花を添えていただき、まことに意義ある大会であったと思っています。

それに、なんといっても嬉しかったのは、この大会で俳句を市民から募集したところ、約300名の方から640句、中・小学生生徒約1100余名の方から2307句の作品が寄せら



▲大会で受賞する子供たち

れてきたことです。

その応募作品の内容も高水準。これを選句するのに、私もかなり気疲れを感じました。市長賞など次に披露してみましょう。

白日傘畳み職場の顔となる

東 良子  
稲刈の一步が父に追いつけず

飯沼たく郎  
杓子庵庭に来てゐる雀の子

中村 たか  
度忘れの殊に人の名むぎこがし

河合 城太  
水打って骨董店の暗さかな

近藤甚之助  
小・中学生の部では

あさがおのえがおならんではひふへほ

(小一) 大橋 れお  
でありましたが、その多くは誰も「うん」とうなずいて微笑する作品であったといえましよう。松尾芭蕉は「俳諧は三尺の童わらべにさせよ」といい、また「俳諧は老後の楽也」

ともいっています。小学校一年生の大橋れおさんの句は、まさに天真爛漫の作品です。私は次の作品を特選としました。

老二人寂けきにみし終戦忌

増田 昭子  
私はこの句を見て、服織で終戦の日をむかえた中勤助・和子ご夫妻を憶いました。どんな運命が来ようとも、寂かなる境地にいる夫婦像。「俳諧は老後のたのしみ」そういえば中勤助師も服織に来てから作句を始められました。

『歳時記』をよく読めば、誰でも俳句はできます。一人碁というのがありますが、俳句は一人遊びができます。見たものに季語を入れ五七五にすれば俳句になり、それを句集にすれば自分史にもなります。「新しい自分とめぐり会う」、そんな気持ちで作句をしてみたら、いかがでしょう。



がんばっています!!  
市民の文化活動。

今回は、平成七年度静岡市文化振興財団の文化活動助成金の交付を受けた団体、並びに静岡市芸術文化奨励賞を受賞されたお二人の方に登場していただきました。

## ストリートミュージック・フェスティバル

フェスティバル代表 岩堀 則 秀

「ストリートミュージック」という言葉を貴方はどんな風に考えますか？ 私は「気さくな街の音楽」というように理解しています。気取らず、飾らず構えずに、ただ、ひたすらに音楽の楽しさを素敵に表現した音楽の事だと考えます。

そんな心に優しい音楽を演奏するミュージシャンが静岡の街かどに居る風景は、現代の華美になり過ぎた照明や大音響のPAシステム等に演出された音楽とは違う新しい感動との出会いが得られると思ひ、こんな企画をたてて見たのです。



## 人形劇の上演を通して創造の喜びを

かあさん人形劇団「星の子」代表 芹澤 幸 枝



フェスティバルというと、ついイベントと考えがちですが、私達の目標は年1回の大騒ぎではなく、「いつもある街角の情景」であります。フェスティバルは単なるきっかけに過ぎないのです。

音楽は人類が生んだ最高のコミュニケーションツールの一つだと思います。様々な人達が音楽で会話したり、自分をアピールしたりと。あらゆるジャンルを、私達の街角をステージにして、多くの方々が自由に音楽を楽しめる土壌を作り、市民が自然に参加できる環境が生まれた時、新たな文化創造に繋がるのでは…。次回は平成8年5月を予定しています。乞うご期待！

連絡先：静岡市丸子5568-6  
岩堀則秀  
(☎ 258-7799)

1974年の第1回公演から、これまでに180回以上も子ども達の笑顔に出会うことができました。軽トラやワゴン車に満載した道具を公演先の会場へと運び、照明・音響・舞台の用意ができれば、皆、黒装束に身を包み、心地好い緊張の中で幕開けを待ちます。子ども達の拍手や歓声などを聞くと、本当に幸せです。それまでの苦勞など消えてしまいます。意見を出し合い脚本を作り、発泡スチロールを削ることから始まる人形作り、それぞれのキャラクターに合った衣装、鉄パイプを組んで黒布を張った舞台、大道具、小道具…などなど。作品を生み出し上演するたびに、多くの人々と

## 静岡市芸術文化奨励賞

### 受賞者の横顔

市教育委員会では、本市の芸術・文化などの面で活躍し、将来その一層の発展が望まれる方々に「静岡市芸術文化奨励賞」をさしあげ、その功績をたたえて表彰を行ってまいります。

今年度の受賞者は、次の方々です。授賞式は、去る平成7年11月11日(土)、市役所 17階大会議室で行われました。



### 彫刻

坂本雅子さん  
(45歳)

彫刻の歴史及び彫刻制作に関する調査・研究を続けています。国画会、市美術家協会、県女流美術家協会に所属。毎年それぞれの会

の展覧会で作品を発表し、数々の賞を受賞され、現在も後進の指導にあたっています。  
東海大学短期大学部助教授



### 写真

鈴木義二さん  
(55歳)

理容業のかたわら、富士山の景勝を芸術性豊かに撮りつづけ、昭和59年県芸術祭の文部大臣賞をはじめ、数々の展覧会において入選。

定期的開催される展覧会では、多くの鑑賞者を集め、写真に対する人気の高まりの一翼を担っています。

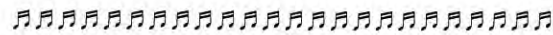
の出会いがあります。人々との交流と支えが私達の活力の源となっているのです。

メンバーの個性が集い、力を出し合ううちに、自分でも気がつかなかった面が引き出されて、今までとは違う自分を見つけることが

できるかもしれません。  
この充実感をぜひ多くの方に味わってほしいと思います。

(大内有見子 記)  
連絡先：静岡市城北477  
芹澤幸枝  
(☎ 246-7202)





## 静岡音楽館AOI開館

音楽の豊かな可能性へ

静岡音楽館AOI市民会議議長

大久保 満 男



今年5月、待望の静岡音楽館AOIが「声明」の演奏会で開館しました。仏教の慶賀の儀式に唱えられるこの日の声明を、長い伝統をもつ純粋な音楽として聞くと、これが日本の音楽の原点であることがよくわかります。AOIは、この声明から始まった今年のAOI企画の音楽会のすべてに、この館の音楽に対する姿勢を明確に表明したいと考えました。それは我々の生きる時代を表現する音楽の豊かな多用性と可能性を、この館の中で実現したいという願いであり、同時にこれがAOIの精神を支える柱の一つでもあります。

私が、市民会議議長という役職以前に一人の市民としてまた聴衆として、ほぼ全ての音楽会を聞き終わった今、私の胸には音楽の美しさや優しさはもとより、音楽が目の前で生まれ出るその緊迫した創造の現場に立ち会ったという幸せな思いがあります。たくさんの中から例えばバルトークの二つの音楽会。間宮芸術監督の提案によって実現した5月の竹澤恭子・ヴァイオリンと野平一郎・ピアノとい

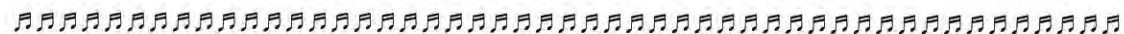
う二人の名手の初顔合わせによる「ヴァイオリン・ソナタ 第一番」、そして11月の「2台のピアノと打楽器のためのソナタ」(ピアノ・野平一郎、岡田博美、パーカッション・松倉利之、石内聡明)。没後50年を迎えた偉大な作曲家バルトークの、大地に根をはったような強<sup>きやうじん</sup>靱な論理と知性を表現しきったこの二つの演奏会に、聴衆は高揚する心に声が届かないという稀有の体験をかみしめていました。このように、ここが常に新たな創造の場であるということもまた、AOIが考える大切な柱のひとつです。

そして夏の音楽祭の最後を飾った「木々のうた」。この日初演されたこの合唱曲は、間宮芸術監督とフィンランドのコルテカンガスの二人の作曲家の、互いに共有しあう音楽の世界を根底に共同作業によって完成した作品です。ここで二人は生命の根源に対する畏敬の念を、私たちに、とりわけ未来を背負う子供達に伝えてくれました。この日歌った静岡児童合唱団とフィンランド・タビオラ少年少女合唱

団の力強く透明な声をとおして、この曲の中に私は地の精霊の声を確かに聞きました。このように子供達に優れた音楽を手渡すこと、これもこの館の大切な役目です。

間宮芸術監督は、AOIの開館式典における芸術監督としての挨拶の中で、この館には音楽の可能性という夢の卵がいっぱいつまっています、と述べられました。一個の小さな卵の中に、その生き物の、その後のすべての生命の形が宿っているように、この静岡音楽館AOIにも音楽の命と可能性があふれている、そんな願いを実現していきたいのです。でも、卵も命も、放っておくだけでは決して育ってくれはしません。その意味で、AOIの夢の卵を暖め、育ててくださるのは会場に足を運ばれる一人一人の聴衆の皆様です。

今年ご来場いただいた皆様に厚く感謝を申し上げます。そして来年も素敵な音楽会がいっぱいです。どうか多くのかたがたにお声をかけて、ご一緒においでいただくことを心よりお願い申し上げます。



いつも、あなたのそばにいる。

世界で使える、自分のカード。  
《セゾン》カードインターナショナル



いつものお店でいつものように、日本のお店でしっかりと、世界のお店で大活躍する《セゾン》カードインターナショナル。VISAまたはマスター、好きなカードをお選びいただけます。

**会員募集中**

◎お申し込み・お問い合わせ  
7階=セゾンカウンター ☎054(274)2428



## 編集後記

文化を例えて表現すると「主食のそえもの」のようなものとか、「調味料」のようなものだという人もいますが、そうではないと思います。

それは「食べもの」、主食そのものと思います。心の食べもの(糧)だと思います。生きていくうえで貴重な心の栄養剤と言えましょう。

こんなに大切な文化や文化活動が市内には沢山あります。

これら多くの文化を支える主役としての皆様方には喜びやご意見、ご苦勞も沢山おありかと思ひます。その他どんなことでも結構です。情報誌を皆様方の「文化の広場」としてご活用頂くためにも、どうぞお気軽に財団事務局にお立ち寄りくださることを願っています。

心の栄養剤を、より多くの人々がスムーズに摂取できるようお手伝いできればと、財団も暗中模索ながら一生懸命やっているところです。

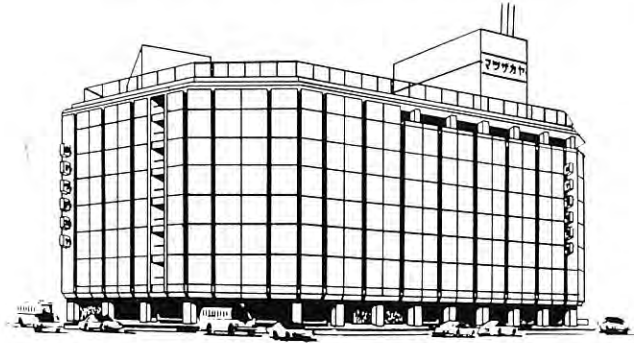
静岡文化情報『街かど』 第4号  
平成7年12月1日

編集・発行  
(財)静岡市文化振興財団  
〒420 静岡市5番1号  
静岡市教育委員会  
(市役所14F)文化振興課内  
TEL・FAX (054) 255-4746  
印刷 株式会社 三創  
静岡市中村町166-1  
禁無断転載・複写



# 生活と文化を結ぶ マツザカヤ

お近くのギフトショップも ご利用ください



【焼津ギフトショップ】焼津市西小川1-11-7  
☎(054)629-3355

【清水ギフトショップ】清水市万世町2丁目7-10  
☎(0543)53-2395

【富士ギフトショップ】富士市本町1-13-24  
☎(0545)61-3319

【沼津出張所】沼津市大手町3-5-6  
☎(0559)62-2106



静岡岡

電話(054)254-1111

☑お車でのお買物も便利です。(契約駐車場2,600台)  
毎日午後7時まで営業 焼津・清水・富士ギフトショップも7時まで営業

## 持っていると、いいことがあるね。



## アイカード。

お買上げ商品5%引きの特典、(一部除外)  
ご予算に応じた分割払い。  
お買得情報のいち早いご提供など、  
とても便利です。

お申し込み・お問合わせは  
(5階=サービスステーション)

電話054(273)4670直通

お申し込みの際は、ご本人を確認できるもの  
(運転免許証など)と健康保険証をお持ちください。

年会費は、ご入会いただいて2年目から。

ご入会初年度1年間は、アイカードお試しサービス期間です。  
事務手数料50円(税込み)のみ、カードお渡し時にいただきます。

※年会費は2年目のご入会日より2,000円(税込み)をいただきます。

アイカード1枚で手軽に便利にキャッシング。

ご返済方法も「リボ払い」「一括払い」の2タイプをご用意しております。

〇D設置場所=1階・5階・8階

●ご融資額:1万円~10万円、1万円単位 ●実質年率:28.20% ●遅延損害金:29.20%

# ISETAN

静岡岡

静岡市呉服町1-7/054(251)2211